

SDGs 未来都市との連携拡大

岩手県岩手町と再生可能エネルギーに関する連携協定を締結しました



横浜市は、2050年までの脱炭素化の実現に向けて再生可能エネルギー（以下、「再エネ」という。）の普及拡大に取り組んでおり、これまでに再エネ資源を豊富に有する21自治体と再エネに関する連携協定を締結しています。このたび、SDGs 未来都市として都市間連携を進めている**岩手県岩手町と、新たに連携協定を締結**しました。

本連携協定により、「地域循環共生圏[※]」の考え方にに基づき、再エネの普及拡大による脱炭素社会の実現と、両自治体の地域活力の創出を目指し、相互に連携して取り組んでいきます。

※：各地域がその特性に応じた地域資源を生かし、自立・分散型の社会を形成しつつ、近隣地域と地域資源を補完し支えあうことで、地域を活性化させるための考え方。第五次環境基本計画（2018年4月閣議決定）にて提唱

1 連携協定について

（1）概要

横浜市の再エネの創出ポテンシャルは2050年の市内の電力消費量の約10%と試算され、再エネへの転換に向けて、2019年2月からこれまでに再エネ資源を豊富に有する21市町村と再エネに関する連携協定を締結し、市域外からの再エネの活用に取り組んでいます。

岩手県岩手町は再エネ資源を豊富に有し、2025年にゼロカーボンシティ宣言を表明するなど、町内における省エネや再エネなどのエネルギー施策を推進しています。また、「SDGs 未来都市」に選定されており、SDGsに先進的に取り組む都市との連携を進めることで、各都市の取組を相互に生かしながら、持続可能なまちづくりの実現を目指しています。このたび、本協定の趣旨にご賛同いただいたことから、再エネに関する連携協定を締結しました。

今後、岩手町内の再エネ電源を活用し、本市が公民連携で推進する広域連携再エネ電気メニューでの供給を検討していきます。また、横浜市庁舎での再エネ連携物産展等を通じ、相互の地域活性化に関しても取り組んでいきます。

連携協定の締結にあたり、岩手町役場にて行われた協定締結式に、平原 敏英 副市長が出席しました。

裏面あり



GREEN×EXPO 2027
YOKOHAMA JAPAN

2027年国際園芸博覧会 2027年3月～9月 横浜・上瀬谷



■協定締結式の様子（2026年7月8日(水)）



【左】佐々木岩手町長 【右】平原横浜市副市長

※写真データをご希望の方は、下記連絡先までご連絡ください。

【連絡先】 脱炭素・GREEN×EXPO 推進局循環型社会推進課

E-mail : da-saiene@city.yokohama.lg.jp Fax : 045-550-3925 Tel : 045-671-4155

(参考) これまでに連携協定を締結している市町村

- ・青森県横浜町
- ・岩手県盛岡市、久慈市、二戸市、葛巻町、普代村、軽米町、野田村、九戸村、洋野町、一戸町
- ・秋田県八峰町、大潟村、湯沢市
- ・福島県会津若松市、郡山市、いわき市、浪江町
- ・茨城県神栖市
- ・栃木県那須塩原市
- ・大分県日出町

(2) 連携内容

岩手町及び横浜市は、脱炭素社会の実現を目指しながら、再エネの活用を通じた地域活性化の取組を推進するため、以下の事項について、相互に連携をして取り組んでいきます。

- ・再生可能エネルギーの創出・導入・利用拡大に関すること
- ・脱炭素化及びSDGsの推進を通じた住民・地域企業主体の相互の地域活力の創出に関すること
- ・再生可能エネルギー及び地域循環共生圏の構築に係る国等への政策提言に関すること

次頁あり



GREEN×EXPO 2027
YOKOHAMA JAPAN

2027年国際園芸博覧会 2027年3月～9月 横浜・上瀬谷



2 岩手町について

(1) 概要

人口：11,073人 世帯数：5,228（2026年5月末時点） 面積：360.46k㎡

岩手県北、北緯40度線上に位置する岩手町は、1955年に1町3か村が合併して誕生し、昨年70周年を迎えました。

岩手町は、東北一の大河・北上川の源泉の町として知られております。町北部の天台宗の古刹「御堂（みどう）観音」の「弓弭（ゆはず）の泉」から湧き出る清水は、河口の宮城県石巻市まで249Kmを南下しながら流れています。

また、東北新幹線「いわて沼宮内駅」が町の真ん中にあり、東京駅とは約2時間30分で結ばれております。

岩手町の大きな特徴は「農業」「スポーツ」「アート」という3つの文化にあります。

面積の約76%が山林・原野の岩手町は、農業が非常に盛んで、県内有数の食料生産基地となっています。その中でもキャベツは、100年以上の歴史がある東北一の産地であり、ブランドキャベツ「いわて春みどり」が有名です。畜産業も盛んで、「耕畜連携」の「環境保全型農業」に町ぐるみで取り組んでいます。

スポーツでは、町技と言われるまで約60年取り組んでいるホッケーの町として知られています。これまで各カテゴリーで数々の全国制覇を成し遂げているほか、全日本選手や指導者を多数輩出しております。北京、ロンドン、東京、パリでは、五輪選手が誕生しました。

そして、アートでは「彫刻のまち」としても知られている岩手町。1973年から2003年まで町産石材を素材として「岩手町国際石彫シンポジウム」が開催されました。世界各地からアーティストが集い、制作された作品は、現在町内各地に展示されています。1993年、その集大成とも言えるべき「石神の丘美術館」が開館。現在は「道の駅 石神の丘」、あるいは「花とアートの森」として皆様に親しまれております。



石神の丘美術館「花とアートの森」から望む
東北新幹線「いわて沼宮内駅」

(2) 再エネについて

岩手町は、2020年7月に内閣府のSDGs未来都市に選定され、持続可能な循環型社会の形成に向けた取組を進めております。また、2025年3月、「ゼロカーボンシティ」を宣言。2050年までに産学官民一体となって脱炭素の取組を進める道を歩き始めました。そして、2026年3月、「①住みやすく災害につよいまちづくり」、「②自然・景観と調和した適正な再エネの導入」、「③地域資源を活かした循環型経済の創出」、「④自分ごととして取り組む省エネ型行動変容」とする「地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」を策定したところです。

岩手町では、これまで地域内の再生可能エネルギーとして太陽光発電と小水力発電が導入されており、現在1年あたりの発電量は11,072MWh（2023年）であり、岩手町の年間の消費量65,984MWhの約16.8%となっております。今後、2031年に年間発電量約40,000～50,000MWhが見込まれる太陽光発電施設が稼働予定となっております。

なお、2024年環境省の自治体排出カルテでは、岩手町の再生可能エネルギー導入ポテンシャルは、年間2,793,415MWhとなっております。

お問合せ先

循環型社会推進課長 松下 Tel 045-671-2636



GREEN×EXPO 2027
YOKOHAMA JAPAN

2027年国際園芸博覧会 2027年3月～9月 横浜・上瀬谷

